

「農」探訪…
 せいせき朝顔市ふりかえり

1983年(昭和58年)に始まった「せいせき朝顔市」も、今回で37回目の開催を迎えました。



▲すっかり夏の風物詩となった朝顔市

開始時は23軒の農家が参加していたが、朝顔市も、年々参加数が減少し、前からは6軒の生産農家数



▲育成段階で3回実施した巡回検査

となりました。しかしながら、今回は新たな生産農家も加わり、朝顔市の活気あふれる元気な姿は、昔と少しも変わっていません。

生産農家も、親から子へと世代交代をしたり、新たな農家が加わったりと、その時代背景に即しながら頑張ってきました。何よりも素

晴らしいのは、第1回の開催時から開催されている朝顔を育てる生産農家の小山儀一さん、濱田眞治さんのお二人が、今回も現役で参加していただくことです。



▲初参加で受賞し喜ぶ生産農家

朝顔作りは、4月の初めの土作りから、種蒔き、鉢上げ、つる巻き、毎日の水やりと、休む暇なく育て、7月初旬の朝顔市を迎えます。

何度となく朝顔市へ来られて、実際に朝顔をお買い上げいただいた方もいらっしゃると思いますが、今回の朝顔市の様子の一部を写真で紹介します。

今年も7月に開催予定の「ふるさと多摩夏まつり せいせき朝顔市」へ、皆様お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。

昔と変わらぬ夏らしい雰囲気と涼しげな朝顔共々、農業委員一同、お待ちしております。

(農業委員 相澤 孝一)



▲朝顔市前日に行われた品評会



▲生産農家勢揃い



▲親子で仲良く鉢選び

「採りつきり栽培アスパラガス」 導入報告
シリーズ3

**採りつきり栽培
アスパラガス**

を受けることで、茎枯病も見つかるなど、色々学ぶことができ、よい勉強になっていきます。

今回は色々な課題が見つかりました。改善点を見つけて対策を講じ、3月中旬頃には、また太くて甘い「採り立てアスパラガス」をお届けできるように、今後も挑戦していきたいと思えます。
 (農業委員 青木幸子)

健幸トマト

今回で3年目になるアスパラガス栽培ですが、5月に雹が降り、夏の長雨や台風のために何回も支柱を直すなど、作業に追われました。
 このような中でも、明治大学の元木先生と一緒に、アスパラガス栽培農家の圃場を巡回し、指導



▲管理された栽培地

アスパラガスは生育が進むに従って、萌芽が徐々に太く背が高くなるため、フラワーネット等で倒伏させないよう早めの対策や設置が大切なことのほか、最低気温が10度から始まる「養分転流」で、春の収量が決まることもわかりました。

年末頃に黄化した茎の刈り取りと同時にマルチを外すまでが、年内の仕事です。



▲適切な指導で生育状況を確認



▲3月19日の鉢上げ

導入3年目となった「健幸(けんこう)トマト」ソバージュ栽培。15軒の農家が参加してのスタートでした。
 これまでは苗を購入していましたが、今回は、3月4日に福祉作業所の皆

さんによる17種類の種まきからの苗生産でした。4月18日に農協2階で開催された健幸トマトソバージュ部会講習会には、30名の方が参加し、熱心にパイオニアエコサイエンス園芸種子部からの説明を受けていました。



▲4月18日の講習会

苗は、農家以外にも、口伝えやネットを見たなどで20軒近い新たなお客様を迎え、500ポットを完売しました。



▲6月の病害

振り返れば、5月4日



▲7月の収穫体験

の雹被害、6月の長雨による輪紋病や灰色かび病の発生時には、メーカーの技術支援を仰ぐなど、課題の多い1年でした。



▲店頭に並ぶ健幸トマト

「有名ブランドって、そう簡単ではない。さらに勉強・研究せねば！」と実感しました。
 次期はさらに多くの農家さんに参加していただきたいと思えます。
 (農業委員 相澤孝二)

多摩市農業委員会「女子会」の取り組み

現在の多摩市農業委員会は、13名の定員中4名が女性で、女性比率は都内トップです(構成は、農業者2名、学識経験者1名、市民公募1名)。

私たち女性農業委員は、農業委員会定例会開催後に「女子会」として集まりを持ち、多摩市の農業を活性化するために話し合っています。

この会合は女子会とはいえ、男性委員と一緒に話し合うこともあり、ここでは、そんな女子会活動の一部を紹介します。

①のぼり旗を作りました
イベントでの野菜販売や軒先販売の時に使用する旗を、多摩市独自のものにしたと考えると、多摩市公式キャラクターである「にゃんともTAMAMA」



▲ Mascotのぼり旗

らに加え、恵泉女子園大学の澤登教授が農業委員となったことで、大学内のフーマーズマーケットでも市内産野菜の販売

三郎くんを使うことを思い立ちました。麦わら帽子につなぎ、手には鎌を持たせた農業パーソンです。農団連の皆様のご協力により完成しました。

②たま広報への情報発信

3回シリーズで「農業委員会女子会だより」を掲載し、情報を発信しています。「農業委員会って何?」「多摩市に農地があるの?」等の素朴な疑問に答え、まだまだ知られていない農業情報をお知らせしています。

③恵泉女子園大学のフーマーズマーケット

市内で地場野菜を買い求める所は、農家宅の軒先販売や聖蹟桜ヶ丘のいきいき市、グリーンロード永山のポルテ、市役所隣の農協

等があります。これらに加え、恵泉女子園大学の澤登教授が農業委員となったことで、大学内のフーマーズマーケットでも市内産野菜の販

売ができるようになりました。販売先が増えることは、農家にとって安心につながり、市民にとっても購入場所が増えることは安心な野菜が食べられることにつながります。



▲大学内での地場野菜販売

④農業イベントパンフレット作成

毎年秋に開催するイベント「農業ウォッチングラリー(2面参照)」で、今年から女子会が発案・作成したオリジナルパンフレットを配布したところ、参加者からご好評を頂きました!パンフレットは、ニュータウン開発後に多摩市にいられた方ももちろん、既存の方も楽しめるよう、コースの歴史等を紹介した内容としました。次回以降も今回以上のパンフレット作成

に挑戦します。

⑤女性農業委員活動を発表しました

女性農業委員としての活動を、昨年10月に開催された「東京都女性農業委員研修会(東京農業会議主催)」で発表しました。



▲研修会で活動内容を発表しました

「女子会」のこれから...

女性1人ではできないことでも、4人集まることで様々な提案が可能になり、協力的な男性委員の理解もあつて、女子会の活動が実を結んでいます。これからも、多摩市の農地を残していく方法や消費者が安心できる、安全な市内産の野菜を食べ続けていける取り組みを提案していきます。

(農業委員 武内 好恵)

編集後記

昨年はさまざまな自然災害が発生し、農業に携わる者としては、苦労を重ねた年であったと思います。

このような中、都市農業をとりまく環境は変わりつつあり、平成30年9月に都市農地貸借円滑化法が施行されてから、昨年、多摩市で初めて、生産緑地の貸借が1件、認められました。今後の農地を活かす方法の選択肢が増えていることは、望ましい流れであると感じています。

多摩市の女性農業委員が、「女子会」を立ち上げて活動中です。皆さんの農業に対する様々な取り組みを、女性の視点からも含めて考えています。多摩市農業委員会へのご意見・ご要望をお待ちしています。

都市農業の未来を明るくするために、農業委員会一同、邁進する所存です。
(農業委員 萩原 弘)